教材事例書式

教材教具名　文章構成カード	教科（　国語　）	

教材教具写真

教材教具の概略（ねらいと使い方）　※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1　ねらい

　ひらがなやカタカナの単語カードを使用して、写真カードの内容について三語文（三語連鎖文）で表現することができる。

2　発達段階

　三語文の理解ができる段階（国リハ式SS法言語発達遅滞検査で段階４－２）から、可逆事態（「AがBを洗う。」という文の、BとAを逆にしても文が成立する場合）の文の理解ができる段階（段階５）の生徒を対象とする。

3　使い方

　ある場面の写真を見せて、その内容について文章構成をさせる。（この時は劇に取り組んでいた時期だったので、その中の場面を写真に撮って使った。ひらがな、カタカナなどの文字の理解の具合によって単語カードを使い分けた。場合によっては絵つきのカードも使用した。）

児童生徒の反応や教材の評価　使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

・日常の場面や学習の場面の写真を使用すると、生徒の意欲をより引き出せる。

・たとえ間違えても、（特に可逆事態の区別は難しい：「AがBをなでる」と「AをBがなでる」の区別）生徒は自分ではなかなか気づかないようだったので、生徒の作った文章の内容について教師が生徒の目の前で人形を操作することで、違いに気づかせるようにした。